

弘法大師1150年御遠忌記念

# 人生は遍路なり

## 大師の慈光

日は沈み月はまだ出ぬ宵の間を  
かかげて照らせ法のともし火

現在より遠く未来の果てまで。救いの大導師として、諸所に現われたまゝ。罪の軽重を問わず、人々の苦しみを除いてやり。親しき者親しからざる者総ての人々に楽しみを与え。不斷に利益を垂れ。窮りなき哀愍の情をそがれておられます。御入定後千百五十年を隔てた今日でも、信心渴仰している人々は常に大悲の御加護を蒙り。四国靈場巡拝者の中には生身の御姿を拝する事が出来て、稀有の御利益を頂いた者があります。我等末世の同行が偏見にもつたなく喜ばねばならぬところであります。

四国第十七番靈場  
山主 中村了嚴  
井戸寺

四国靈場第十七番 井 戸 寺 徳島県徳島市  
国府町井戸 <四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

# 人生は遍路なり

当山はお大師さまが御母公に孝養を尽されたという玉依御前ゆかりの靈場あります。

「子をうめるその父母の恩山寺」……と御詠歌に詠せられているように父母の恩を決して忘れるではないとお訓しになっています。

お大師さまはよく四恩の報謝ということをお説きになっています。  
私達の生活は自分一人で成り立つものではありません。お互いに恩を受け合って生活をつづけています。それが現代社会では恩を感じる生活態度が消へかけて、受けた御恩を返すという気持がうすれています。私達はたとへ小さなことでも一つ一つお返していくことがそれが人間の生きる道であると思います。

子を持って知る親の恩

孝行したい時には親はなし

四国靈場第十八番 恩山寺

徳島県小松島市  
田野町恩山寺

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

# 人生は遍路なり

## 「拝み合い運動」

み仏への合掌は已れを空しくして、お慈悲の懷の中に自分の全体を投げ入れる姿であります。人に対する合掌は相手の心と自分の心とが同化し合一する相であります。拝み合う世界に争いはなく拝み合う社会に罪惡は生じません。拝み合う家庭に悲しみは追放されます。拝み合う世界は平和の世界です。拝み合う社会は清められた社会です。拝み合う家庭は喜びの家庭であります。万人みな相互に拝み合つてゆく暮らし方を相互礼拝の生活というのであります。

四国靈場第十九番  
別格本山立江寺貫主

庄野琳城

四国靈場第十九番 立江寺

徳島県小松島市  
立江町字若松

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

# 弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

第二十番 靈鷲山 鶴林寺 かくりんじ (別格本山)

当山は、延暦の昔高祖弘法大師がこの地で御修行中、雌雄二羽の白鶴が、翼をひるがえして黄金の地蔵菩薩を守護しながら老杉の梢に舞いおりるのを見たのであります。

大師は歓喜してただちに一米ほどの地蔵菩薩を彫刻し、黄金仏をその胎内に納めて一寺を建て本尊として安置しました。

山容が印度の鷲峰山に似てるので山号を靈鷲山、寺号を鶴林寺と名づけられました。延暦十七年(七九八)恒武天皇が勅願を以て、七堂伽藍を造営せられました。

以来、勅願寺として歴代の天皇が尊信を依せられたのははじめ、源頼朝、義経、三好長治、蜂須賀家政などの武将も深く帰依し、特別の保護を講じたようあります。特に藩主蜂須賀家においては、この寺を祈願寺と定め、寺領七百石と広大な山林を寄進し、寺の建物の造営すべて藩費で行なうほどであったといいます。阿波一帯の寺が兵火で焼失したときも、難を免れ、四万一千坪の境内をおおつた老木とともに千有余年後の今日も塔中七寺、末寺十五寺を持つ大寺として寺門愈々繁栄しているのであります。

四国靈場第二十番 鶴林寺

徳島県勝浦郡  
勝浦町生名

<四国八十八ヶ所靈場全登行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

当寺は舍心山常住院太龍寺と号し、真言宗高野派に属する名刹で、西の高野と俗称されています。四国山脈の西南端、海拔六百米の太龍寺山の山頂近く、数百年の樹齢を算する巨杉に囲まれて、虚空蔵菩薩を本尊に祀る本堂を中心<sup>に</sup>、多宝塔、大師堂、求聞持堂が散在し、石段を下れば鐘樓門、本坊、庫裡、護摩堂、六角經藏が立並び、スケールの大きな山寺の趣きを現存しています。

当山の創建は古く桓武天皇の延暦十二年に弘法大師が開基されたのであります。勿論その後幾多の変遷、興廢の歴史を経つ現在に至ったのでありますが、殊に白川法皇の御代、東寺の名僧長範大僧正が、院宣を受けて登山し伽藍堂宇を再建せられました。

又第八十八代後嵯峨天皇の御勅書があり、太龍寺山の伐木、殺生禁断の旨が許されました。

四国靈場第二十一番 太 龍 寺

徳島県阿南市  
加茂町竜山2

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

# 弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

本尊は薬師如来、弘法大師がこのあたりをご巡錫のときに、空中に五色の霊雲たなびき、なかに<sup>アハ</sup>（梵字一金剛界大日如來）があらわれた。大師は歓喜して加持されると<sup>アハ</sup>は薬師如來の尊像に変顯されたと伝えられている。大師はその地を堀って湧き出した靈水で沐浴、百日間修行、感得の薬師如來を刻み、堂宇を建立して安置され、山号を靈水湧出の地であるところから「白水山」とし、寺号を、誰をも平等に利益救済を給わるように祈られて「平等寺」と名づけられたという。靈泉は「鏡の井戸」とよばれ、大師堂の北にある。石段の左下にも加持水があるて、地蔵さまをおまつりしてある。加持水をいただいて病氣の治った人は地蔵さまに「よだれかけ」を、腫物の治った人は「松かさ」をさし上げる。地蔵さまはよだれかけで見えないくらい、松かさも糸にとおしたのがたくさんぶらさがっています。

南無大師遍照金剛  
同行二人

四国靈場第二十二番 平等寺  
<四国八十八ヶ所靈場会発行>

徳島県阿南市  
新野町秋山

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

### 厄の落とし方

厄坂の石段の下には薬師本願経の経文を小石に一字ずつ書いて埋めてあるので、自分の厄年にあたる坂の石段を踏み、一段毎に一円ずつ置いて行く。又、絵馬堂の中に厄除けの臼があるので、各自自分の年の数だけ杵でつき鳴らす。更に、広場には厄除けの小さな鐘があるので、これも年の数だけうつと厄が鳴り落ちるという。

無量寿院

徳島県海部郡  
日和佐町

四国霊場第二十三番 薬王寺

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

# 弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

### 弘法大師（空海）と室戸岬

お大師様は、宝亀五年（七七四年）香川県善通寺に生をうけ、十八才で勉学のため京都におのぼりになられた。御自分の将来の歩み方を摸索され、一沙門より「虚空藏求聞持法」を伝授されるのです。お大師様は、寅の年寅の日寅の刻にお生まれなされたと伝えられ、一代の守り本尊様が虚空藏菩薩様で因縁浅からぬものがあつたのです。

#### 三教指帰

「経に説く、若し人法に依つてこの真言、一百万遍を誦すれば即ち一切の教法の文義暗記することを得」と、御自分の行く道をこの法にかけるのです。

#### 三教指帰

「阿国大滝嶽にのぼりよじ、土洲室戸の崎に勤念す、谷響惜まず明星来影す。」

弘法大師御遺告 「心に観<sup>する</sup>時、明星口に入り、虚空藏の光明照しきたりて、菩薩の威を頗<sup>わ</sup>らし、仏法の無<sup>む</sup>一を表わす。」

明星とは、明けの明星すなわち金星であり延暦十一年（七九二年）お大師様宗教家の第一歩は十九才の時であります。

室戸の空と海がそうさせたのでしょう。

合掌

高知県室戸市  
室戸岬町 4051  
四国霊場第二十四番 最御崎寺  
<四国八十八ヶ所靈場会発行>